

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	患者の行動変容を導く動機づけ技法の修得を目指す 対人援助型コミュニケーション能力育成プログラム				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科・教授	氏名	仲井 雪絵
	研究分担者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科・准教授	氏名	長谷 由紀子
		所属・職名	医療系大学間共用試験実施評価 機構・委員	氏名	吉田 登志子
		所属・職名	岡山 SP 研究会・代表	氏名	田中(前田) 純子
	発表者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科・教授	氏名	仲井 雪絵

講演題目
行動科学に基づく対人援助型コミュニケーション技法「MI」のシミュレーション教育プログラム —模擬患者参加型演習への展開—
研究の目的、成果及び今後の展望
<p>【研究の目的・背景】 行動科学をベースに構築された「動機付け面接法 (Motivational Interviewing; MI)」は、患者教育・保健指導で行動変容を導く対人援助理論とその技法である。健康行動や治療アドヒアランスにおける有効性が実証され、MI は保健指導に従事する医療者の間で広く認知されている。しかし日本の歯科衛生士養成における医療コミュニケーション教育は発展途上であり、MI に関する教育は皆無に等しい。そこで本研究代表者は当該領域の専門家と協働し、本学の教育課程にプログラムを導入するための計画を遂行してきた。平成 28 年度は医療面接シナリオとルーブリック評価シートを開発し、平成 29～30 年度は医療系大学間共用試験実施評価機構委員を招聘し、体験先導型シナリオベース教育法を導入した。令和元年度は、MI 技法を修得するための歯科衛生士向けプログラムを考案・試行し、令和 2～3 年度には模擬患者を試験導入し応用展開の可能性を検証した。チーム医療を担う場合に必要となる高度 MI を修得するには、この面接技法の理論を実践につなげるシミュレーション教育を拡充する必要がある。そこで本年度の目的は、模擬患者参加型シミュレーション教育を MI 導入プログラムに組み込み、リアリティを一層高めた教育方略の創成である。長期の目的は、他の職種と協働し静岡県民に高水準の口腔保健・歯科医療を供給できる優秀な歯科衛生士を育成することである。</p> <p>【成果及び今後の展望】 当該分野の第一人者である吉田登志子氏と、わが国の SP 第一号として医学・歯学系医育機関で活躍中の前田純子氏を招聘し、実務と学術の両面から医療者教育学に造詣の深い長谷由紀子准教授（本学）と協働でプログラムを策定した。COVID-19 感染拡大防止に最大限配慮し、歯科衛生学科 2 年生 39 名を対象に、MI 理論と実践に関する講義を行った。その次に、歯科臨床の設定でシナリオベースの SP 参加型実習として MI 技法の演習を実施した。終了後に受講学生が記述したレポートによると、SP 参加型の MI の学びは大変新鮮な経験として、また今後の臨地実習で応用する意欲に満ちた意見が多かった。臨地実習前の時期に SP を相手に臨場感あるシミュレーション教育を実施したことが、情意領域の醸成にも寄与したと考える。今後は SP 参加型 MI 学修プログラムの前段階に、学生同士のロールプレイ演習を組み込むことで、教育効果の重層化をはかりたい。</p>